

■ 平成25年9月4日 南部・東部地域振興対策特別委員会 県内調査

1. 宇陀市立室生保育所（宇陀市室生三本松）

調査目的：県産材を利用した公共建築物について

調査概要：施設概要等について説明を受け質疑を行った。

【施設概要】

- ・ 事業内容 木造公共施設整備
- ・ 事業名称 奈良県緑の再生プロジェクト事業
- ・ 工 期 平成22年6月～23年3月
- ・ 補助対象事業費 116,550千円
- ・ 補助金 58,275千円（1/2）
- ・ 敷地面積 1,153㎡
- ・ 建物面積 479㎡

【特 徴】

- ・ 奈良県産材のスギ74㎡を使用
- ・ 保育室を広く取るため、構造材の一部に集成材（奈良県内の工場にて奈良県産スギ材を加工）を使用
- ・ 保育園児は自力で避難できないため内装材を不燃化し木材使用は一部控えている
- ・ 隣の室生幼稚園も木造建築であり、内廊下で接続されている

【宇陀市の取り組み】

- ・ 公共建築物における宇陀市産木材利用推進方針の策定（平成24年6月）
- ・ 宇陀市産木材利用促進事業
建築物等の工事に一定量以上の宇陀市産の木材を利用した場合に「ウッピー商品券」の交付（平成24年7月～）

質疑内容：（Q）補助対象の範囲はどこまでか。

（A）補助対象事業費は木造の建物が対象。総事業費1億5千万円には備品・消耗品費、用地買収費、土地の鑑定費用等も含まれるが、補助対象は建物部分になる。

（Q）子どもや保護者の反応はどうか。

（A）子どもも保護者も第一声は「きれいなところだ」ということだった。
建て替え後は、子どもも保護者も非常に喜んでいる。
木の園舎で緑の園庭であり、気持ち良く過ごしている。

（Q）どのような効果があったのか。

（A）来園・来所者に木造の建物を見ていただくことで、木造建築の良さを理解され利用を促進する効果がある。ここで育った保育園児が将来、木造建築を利用することにつながると期待される。また、他の公共建築物の木造利用を促す効果がある。



2. 国道369号 道路災害復旧工事（宇陀市榛原内牧）

調査目的：紀伊半島大水害により被災した被災道路の復旧工事について

調査概要：国道369号（榛原内牧）における各工区の概要の説明を受けた。

平成23年公共土木施設災害復旧事業に申請し、採択され本復旧に着手。第1工区は平成25年4月に対策工完成

<第1工区>

被災状況：高さ約70mより谷地形箇所に沿って土砂の流出が発生し、既設の擁壁を乗り越えて土砂が道路にはん濫し通行止となる。

対策工法

- ・崩壊した不安定な土塊を除去することで、斜面を長期的に安定させる。
- ・崩壊した土塊を除去した斜面は、植生基材にて法面保護をおこなう。
- ・斜面上部は、斜面の安定を図るため、1:1.0で切り土し、アンカー工と法枠工とを併用することで斜面を補強する。
- ・最下段の擁壁上部にフトン籠を設置することにより、斜面内の地下水を斜面外に排出させ、斜面の安定を図る。

<第2工区>

被災状況：高さ60mの谷地形箇所に沿って土砂の流出が発生。また、崩壊した土砂が落石防護柵（H=2m）を破壊し、土砂が道路にはん濫し通行止となる。

対策工法

- ・不安定な崩壊した土塊を除去、安定勾配（1:1.8）に切り土することで、斜面を長期的に安定させる。
- ・切り土のり面は、植生基材を吹き付けることで斜面の保護を行う。

増 破：斜面の上部で対策工事を施工中に多量に湧水し、表層崩壊が発生。排水パイプの設置及びコンクリート吹き付け工にて安定化を図っていたが、平成25年2月上旬西側斜面に地すべりが発生したため地すべり災害として申請。7月に国の採択を受け、平成25年10月頃から対策工事に着工する予定。



3. うだ・アニマルパーク（宇陀市大宇陀小附）

調査目的：いのちの教育の実践施設、東部周遊観光の拠点施設

調査概要：施設概要等について説明を受け、質疑を行った。



【沿革】

平成14年度 うだ・アニマルパーク基本構想策定

平成20年4月 既設の県畜産技術センターと

動物飼育施設・動物愛護センターを新設し、うだアニマルパークとして開園

【開設の目的】

- ・児童・生徒が多種・多様な動物と触れあうことにより、動物を学び、動物から学ぶことをとおして生きる力を身につけ、いのちの教育の実践をする。
- ・広く県民に動物全般に対する理解、動物愛護の啓発を図るとともに、レクリエーションの場を提供する。

【施設の概要】

- ・来場者数・・・平成24年度 165,590人 平成25年度は20万人を目指す。
- ・イベント開催・・・夏のほんのりあんどん、ふれあいフェスタ、奈良県東部農産物畜産品等の販売、ふる里宇陀黒豆枝豆まつり等計90あまりのイベントを実施
- ・施設整備・・・平成25年度後半に大型遊具（すべり台）及び三施設（譲渡用犬猫舎・軽食施設・展望広場休憩施設）を建設予定。植栽による四季のいろどり等と合わせて、来場者のためのアメニティの向上をめざしている
- ・いのちの教育について・・・動物と人間の関わりの気づき、共感、責任をキーワードに児童・生徒に対するいのちの教育プログラムを展開。モデル校に対し2回の学校訪問と1回の来園を基本としたプログラムの実施。
- ・東部周遊観光の拠点・・・大和高原（東吉野）観光振興協議会の一員として地域内の観光資源の有機的連携と地域内の周遊観光ネットワークを図っている。じゃらん・るるぶ・ぱーふるなどの広域な雑誌に記事を掲載し、魅力発信に努めている。

質疑内容：（Q）どれぐらいの数の犬猫の処分をおこなっているか。

（A）本年度は1898頭。（調査時点まで）

（Q）県民に譲渡している犬猫の頭数はどれぐらいか。

（A）平成24年度は102頭です。一昨年は107頭。

（A）犬猫を処分された後の最終処理はどうなっているか。

（Q）引き取り手がない犬猫は麻酔処理で殺処分し、週1回2時間かけて焼却している。年にドンゴロス20杯ほどの骨灰がたまるので、医療用産業廃棄物として業者に出している。



4. JAならけん まほろばキッチン（権原市常盤町）

調査目的：食・農・観の中南和の拠点施設

調査概要：まほろばキッチンの施設概要及び観光案内所の概要について説明を受けた。

【沿革】 耳成高校のグラウンド跡地に建設

- ・平成25年4月2日 先行オープン（農産物直売所）
- ・平成25年4月14日 グランドオープン



【施設概要】

- ・敷地面積 17,891.16㎡（5,412.08坪）
- ・店舗棟 鉄骨平屋建て 3,499.52㎡（1,058.60坪）
- ・施設内容 農産物直売所（売場面積）1236.23㎡（373.95坪）
産直レストラン 120席（バイキング形式）
特選レストラン 22席（フレンチ）
フードコート 64席
観光案内所 51㎡（15.42坪）（中南部の観光案内）他
- ・来場者数 開設後 281,756人

【特徴】

- ・食（レストラン）・農（農産物直売所）・観（観光案内所）の機能をもつ
- ・ポイントカードの発行（21,000人が登録）、クレジットカード対応
- ・防災施設として遊びの丘や簡易トイレを設置し、地域の防災拠点としている
- ・バリアフリーを充実、多目的トイレの設置

【観光案内所について】

- ・来所者 開設後 約23,000人（160人／1日）
- ・特徴 ICT機器を活用した効率的な観光案内（電子黒板・デジタルパンフレット）を実施。人から人へのおもてなしによる観光案内としてコンシェルジュ2名を配置し、市町村観光案内所との連携したリアルタイムな情報提供。南部地域観光プロモーション、中南部観光プロモーションなど市町村と連携したイベントを実施。

